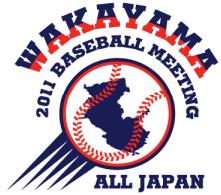


平成 23 年度 全国中学校総合体育大会 第 33 回 全国中学校軟式野球大会 ～君の夢 近畿の夏に 咲きほこれ～



【閉会式特集】 諸富中学校（佐賀） 全国の頂点に ～第 34 回大会は群馬県で開催～

～君の夢 近畿の夏に 咲きほこれ～をスローガンとし始めた第 33 回全国中学校軟式野球大会は、九州地区代表の佐賀県・諸富中学校の優勝で幕を閉じた。閉会式は、熱戦の余韻がさめやらぬまま行われた。優勝校の諸富中学校に大優勝旗が、準優勝校の奥田中学校に準優勝盾が贈られた瞬間、両校にスタンプから惜しみない拍手が湧き起こった。

2 度目の全国制覇となる諸富中学校は、古賀君・樺島君の両投手を擁し、投打において非常にバランスがとれたチームであった。身体は大きくないものの高い身体能力に裏打ちされた強力な守備と上位から下位までそがなく、チャンスを確実にものにしていく攻撃で全国の頂点となった。また、準優勝に輝いた奥田中学校は、力投派右腕の椎名（皓）君、技巧派左腕の小柴君を擁し、ピンチでもチャンスでも動じない大会指揮の精神力と鉄壁な守備で、次々と全国トップレベルの強豪を撃破し粘りの野球を展開した。

第 3 位の魚住東中学校は、選手それぞれが自分の持ち味を發揮し、堅実なプレーで優勝した諸富中学校などを苦しめた。同じく第 3 位の城山中学校は中学生らしいはつらつとしたプレーで見ている人に感動を与えた。

そのほかにも、全球フルスイングで個性のある選手が非常に多かった磐田東中学校。優勝候補といわれた仙台育英中学校・明徳義塾中学校という強豪校を次々と撃破し、清水君の好投が光った駿台学園中学校。開催地代表上富田中学校は、鍛え抜かれた守りで全員が最後の最後まであきらめず和歌山の野球を貫いた。小川君、平君、山田君の 3 投手を中心とし、ミスを恐れない守りのチームでベスト 8 に進出した江津中学校。城東中学校は「走・攻・守」バランスのとれたチームで九州ブロック代表として「元気・はつらつ」のプレーを見せた。記憶に新しいノーヒットピッチングを披露して見せた伊丹君率いる巻西中学校。初戦で敗退したものの仙台育英中学校は、常に全力疾走ではつらつとした姿が印象的であった。また、試合終了後も試合会場周辺のゴミ拾いを行い、野球以外でも我々を清々しい気持ちにさせてくれた。

今大会は震災があった中の開催となり、参加 25 校の各選手がそれぞれの想いをもってプレーしてくれたように思う。このことは被災された方々に大きな勇気と感動を与えてくれたことだろう。何をするにも、エネルギーを惜しまなく使い、どこが相手であろうと誠心誠意ぶつかっていく姿に感動・勇気をえてもらった大会であった。来年の 34 回大会は、群馬県での開催となる。今大会以上の盛り上がりを託し第 33 回大会を終える。

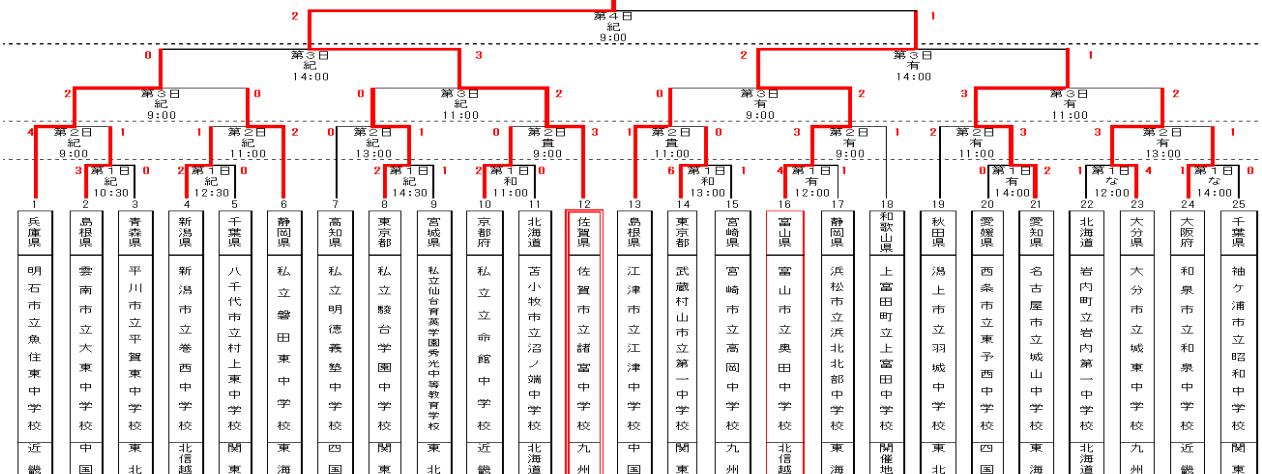
〈今大会を振り返って〉

波多江 淳二 大会副委員長（日本中学校体育連盟軟式野球競技担当理事）

天候にも恵まれ 8 月 17 日から 4 日間に渡り熱戦が繰り広げられましたが、先程の決勝戦をもちまして全競技が終了しました。見事に優勝を果たしました諸富中学校のみなさん優勝おめでとう。チーム一丸となって戦うその姿は実に見事であります。改めて栄誉をたたえたいと思います。そして惜しくも決勝戦で敗れましたが実に最後まで諦めない姿が素晴らしい奥田中学校のみなさん第 2 位おめでとう。1 点を争う好ゲームでした。どちらも全力を尽くし戦ってくれました。見ているものに勇気と感動を与えていただきました。ありがとうございます。君たちはこの紀三井寺球場で戦ったことを大きな思い出とし、また誇りにし明日からの生活を頑張ってほしいと思います。最後になりましたが、見事な大会運営をしていただきました和歌山県の実行委員会のみなさま、大会関係者のみなさまに感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。また最後まで暑い中声援を送っていただきました、スタンプの皆さんありがとうございました。

大 会 結 果

優 勝



近畿中学校体育連盟軟式野球部で東日本大震災の被災地に野球道具を送るための義援金を募ったところ、多数のご協力が得ることができました。ありがとうございました。



優勝 諸富中学校



準優勝 奥田中学校

試合経過、チーム紹介などを掲載したホームページが下記のアドレスに開設されています。

URL <http://www.zenchu-baseball133-wky.jp/>

和歌山県・全国大会実行委員会 記録広報部